



平成25年9月  
発行

岐阜県総合医療センター  
地域医療連携センター部



## 薬薬連携・医療連携(地域との連携)を強化して、 さらに地域に開かれた薬剤部門を目指して

岐阜県総合医療センター 副院長兼薬剤センター部長 遠藤 秀治

この4月から副院長を拝命しました。私はこれまで薬剤師の視点から病院のコンピュータ開発、治験管理センターの立ち上げなど病院全体のシステムや体制の構築に関わってきました。また、数年前からは地域での薬剤師同士の連携(薬薬連携)の体制構築にも関わっています。

今後はこれまでのノウハウを活かし病院と地域との連携の一翼を担っていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

### 薬剤部門の紹介

薬剤部門の紹介をさせていただきます。余り聞きなれないと思いますが当院では薬剤部門を薬剤センターと呼んでいます。それは、平成24年に薬学六年制教育をうけた薬剤師が世に初めて出てきました。それに合せて従来の医薬品の取扱いを主とした薬剤部の他に、薬学六年制教育で強化されたコミュニケーション主体の業務を行う薬剤(師)総合管理部を新設し薬剤部門の組織再編をしました。この二つの部門が薬剤センター部です。昨年の4月には以前から計画をしていた10名の薬剤師を増員して病棟へ配置し「入院基本料の薬剤業務実施加算」にいち早く対応しました。また、コミュニケーションの強化として外来担当薬剤師の新設と医薬

品情報(DI; Drug Information)担当を二名制としました。まず外来担当薬剤師についてですが、外来担当薬剤師は、入院予定の患者さんの持参薬の確認をしています。当院を中心とした岐阜地域は薬薬連携(開局薬剤師と病院薬剤師の連携)と医療連携(医師と薬剤師の連携)により入院・退院時の情報のやりとりが全国でも進んでいる地域です。時々、入院患者さんの持参薬の確認で先生方へFAXで問い合わせしていると思いますが、それは持参薬確認を単に物としての確認ではなく、それまでの処方歴、アレルギー歴等の確認と考えて、直接先生方から提供いただいた情報を入院後の治療に活用させていただくためです。

次に、DI担当ですが、医薬品を適正に使用するには、医薬品の情報は不可欠です。DI担当の薬剤師は、2300品目(院外採用含む)の採用品目を中心にPMDAメディナビからの最新の医薬品情報を入手するとともに、製薬企業から提供される情報も収集しています。収集した情報を吟味し理解しやすいように簡便にまとめ、院内の医師・看護師等の医療従事者や患者さんに対して情報提供を行っています。また、院外からの問い合わせにも対応しています。現在は地域の薬局を中心に毎月90件程度の質問があります。先生方の質問にもお答えしますので、「地域の医薬品情報室」として、是非、ご利用ください。

今後も地域に開かれた薬剤部門を目指していきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。

☎058-246-1111 内線2003 または医薬品情報室(略称DI室)と指定してください。

## 連携医の紹介

## 石川内科クリニック

院長 石川 裕



院長 石川 裕



副院長 石川 貴之

医療に関するご相談窓口として、  
お気軽にご来院いただけますよう  
スタッフ一同、お待ちいたしております。

岐阜県総合医療センターの諸先生、スタッフの皆様、近隣の先生方には、平素より大変お世話になり、誠にありがとうございます。総合医療センターの先生方には、患者様の急な紹介に対しても、いつも快くご対応いただき、心より感謝申し上げます。

当院は、総合医療センターから西へ車で10分ほどのところ（名鉄田神駅から徒歩3分ほどのところ）にある、内科・呼吸器内科のクリニックです。医師は、院長・石川裕と、副院長・石川貴之の2名で、看護師、事務員等のスタッフはあわせて9名という体制で診療を行っています。

市内に呼吸器内科を専門とするクリニックが比較的少ないとから、「呼吸器内科の専門的診療を受けたいが、いきなり大きな病院にかかるのはちょっと…」といった方のニーズにお応えすることができております。たとえば「咳が続く」といった症状があって、インター



ネットで当院を検索して、遠方から来られる患者様もおみえです。その他、禁煙治療や睡眠時無呼吸症候群の診断・治療なども専門性を活かした診療として実施しております。

ただし、こうした専門分野の診療もさることながら、地域の身近な「かかりつけ医」であるためには、健康上のさまざまな悩みについて、「まずは、石川内科クリニックで相談してみよう!」と言っていただけることが重要な使命であると考えております。そのため、医師もスタッフも、患者様の話にしっかり耳を傾け、患者様が何を求めておられるかを常に考えて対応するよう心がけております。そして、当院で対応できる範囲と、より専門的で高度な医療を必要とする部分とを見極めていきます。したがいまして、総合医療センターのように、幅広く高度な専門診療を担っていただける施設が近くにあることは、大変心強く感じております。

最後に、あらためて貴施設の皆様の日頃のご親切な対応に御礼申し上げ、稿を終えたいと思います。



# 診療科の紹介

## 眼科

### 日帰り外来白内障手術のご紹介

平成24年9月より入院しない日帰り外来白内障手術を開始し、現在、白内障手術のほとんどを日帰り外来手術で施行しております。



白内障手術風景

ます。日帰り外来白内障手術といっても手術の方法は入院手術と全く同じですので、入院費がかからず、



外来 白内障術後の待機ベッド

しかも入院と同じ最新の白内障手術を受けることが可能です。

手術は月曜日と金曜日は午後、火曜日は午前に行っております。

**眼科部長 直原 修一**

午前の場合は8時30分、午後の場合は11時に来院していただき、術前点眼後、順番に当院手術室で手術を施行。術後約1時間外来のベッドで安静を保った後、帰宅していただいております。翌日は、術後診察が必要ですが、朝1番で優先的に診察させていただいているため、ほとんど待ち時間がありません。

当院の白内障手術は、最新の超音波白内障手術装置を用い、安全・確実な手術に努めております。また、乱視が強くて適応のある方には乱視矯正眼内レンズ(トーリックレンズ)も挿入しております。

尚、独居の方などでどうしても入院を希望されれば、



スタッフ一同

1泊のみ入院しての白内障手術も可能ですので、お気軽にご相談ください。

## 小児集中治療室(小児ICU)

このたび、小児三次救急体制に必要とされている小児集中治療室(小児ICU)が岐阜県内ではじめて当院に整備されました。これにより、二次医療機関からの受け入れ要請に対しこれまで以上に手厚く対応できるようになりました。

これまで、新生児を含めてあらゆる小児救急に対応するため、当院の小児系診療科は広域(岐阜圏域、中濃圏域)の二次小児救急の最後の砦としての機能を果たしてまいりました。また、一次小児救急についても各務原市医師会の協力を得つつ24時間365日対応の小児急病センターをすでに4年以上続けてまいりました。すなわち、救急車の受け入れはもとより、一次医療機関からの受け入れ要請や患者の直接来院等のあらゆる一次二次小児救急は断らないことを旨としてまいりました。今回の小児ICU整備は、この体制をさらに強化するものであり、一次から三次のあらゆる小児救急につ



**小児医療センター長 桑原 尚志**



小児ICU

いて対応できる体制に一歩近づいたと言えます。

今回小児ICUとして稼働するのは2床ですが、人材育成を行い近い将来6床まで増床する計画です。当院の小児系医師は、新生児センター、小児ICU(小児循環器病棟)、救命救急センターの3部門の24時間365日の日当直に対応しておりますが、地域の大きな役割として一次、二次、三次とも当院の機能をフル回転し全力を尽くす決意をしております。

## Topics

## ハイブリッド手術室

高度先端医療センター部長 荒井 正純

当院では2013年7月より、ハイブリッド手術室の稼動を開始しました。今回は、このハイブリッド手術室を紹介させて頂きます。



高度先端医療センター部長  
荒井 正純



循環器内科  
大動脈ステントグラフト専門医  
後藤 芳章

## ハイブリッド手術室とは？

ハイブリッド手術室とは、カテーテルによる内科的治療と外科的手術治療のどちらにも対応した部屋のことで、手術室と同等の空気清浄度を保ちながら、懸垂型の血管造影装置(3D-CT撮影も可能)を用い高画質な透視・3D撮影を行うことができるようになっています。全身麻酔での開胸・開腹手術にも対応できるように、麻酔器や人工心肺装置なども手術室内に備えています。



当院のハイブリッド手術室

## なぜ、今、ハイブリッド手術室なのか？

現在は、より低侵襲な治療を実現することが医療のトレンドとなっています。従来であれば外科手術しか選択肢がなかった病気に対して、カテーテルを用いて血管内から治療を行うことが随分と可能になってきています。しかし、全てをカテーテル治療で済むことは困難な病態もあり、こういった場合は手術を同時にすることで治療を完結することができます。また、血管内からのカテーテル治療もその適応が拡大するとともに手技も複雑化されリスクも増大していますが、ハイブリッド手術室で行えば、カテーテル治療での困難例や合併症発生例に対してその場で速やかに手術治療に移行することができます。現在同じ病気に対する治療でも多数の治療法があり、当院ではこのハイブリッド手術室を活用して、患者様により低侵襲かつ効果的な治療の提供を目指しています。

ハイブリッド手術室が設置されているのは岐阜県では当院が唯一であり、愛知県でも今のところ1施設のみです。約3億円の巨費を投じてこのハイブリッド手術室を造ったのは、東京や大阪で受けるのと同等の医療は岐阜県でも受けられるべきである、すなわち医療のレベルに地域格差はあってはならない、という当院の理念に基くもので、地域の方々にこのハイブリッド手術室のメリットを少しでも還元できればと考えています。

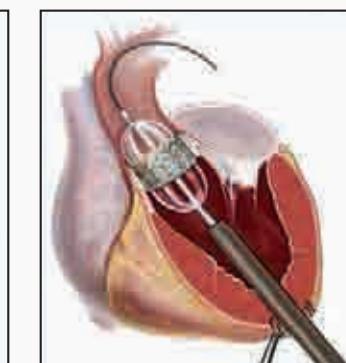
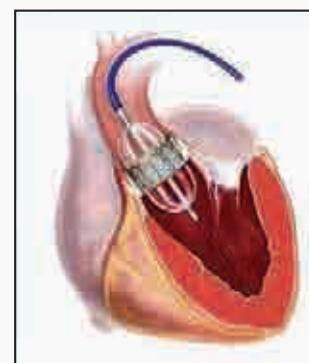
## ハイブリッド手術室を使った治療とは？

当院では現在、胸部大動脈瘤や腹部大動脈瘤に対するステントグラフト治療や心房中隔欠損症に対するカテーテル治療、ペースメーカー植え込み術(特に心室再同期療法(CRT))には有用性が高いと考えています)などの治療にハイブリッド手術室を活用しており、より安全かつ清潔に手技を完結させることができます。

今後は、大動脈弁狭窄症の症例に対して経カテーテル的大動脈弁置換術を行うことを大きな目標としています。

## 経カテーテル的大動脈弁置換術とは？

この新しい手術は、大腿動脈や左室心尖部経由で透視や血管撮影を行いながらカテーテルを挿入し人工弁を大動脈弁輪部に植え込むもので、小切開のみを要する侵襲の少ない画期的な手術方法です。大動脈弁狭窄症の多くは加齢によるもので、患者さんの多くが高齢です。通常の開胸による大動脈弁置換術を行うにはリスクの高い患者さんに対して非常にメリットの大きな治療方法になることが期待されており、この治療によって今まで手術治療が必要でも不可能であった患者さんにも治療が可能となる可能性があります。この治療法はハイブリッド手術室のみで実施可能であり、当院では遅くとも平成25年度中には治療を開始できるように準備を進めています。



経カテーテル的大動脈弁置換術  
(左:経大腿動脈アプローチ、右:経心尖部アプローチ)

## 最後に

ハイブリッド手術がカテーテル治療と外科手術の融合であるように、治療法の多様化に伴い医療の世界もボーダーレス化が進んでいます。外科医と内科医、麻酔科医などが診療科の垣根を越え良好な協力体制を築くことが今後のハイブリッド手術室での医療の実践には不可欠であり、メディカルスタッフとも協力して総合的に治療にあたりたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

## Topics

## ロボット支援手術のご紹介

泌尿器科部長 高橋 義人

『すこやか』第24号でご紹介いたしましたように平成25年2月1日に岐阜県総合医療センターに手術支援ロボット(ダビンチSi)が導入されました。

手術支援ロボット(ダビンチSi)は平成24年10月18日に厚生労働省の薬事承認を受けた最新式の手術支援ロボットです。



手術支援ロボット(ダビンチSi)装着中

手術機器としての能力は高く、胸部手術・腹部消化器手術などあらゆる手術に対応できる“ロボット”です。現在、日本で保険の対象となる術式は前立腺がんに対する前立腺悪性腫瘍手術のみです。また、保険の対象として手術支援ロボット(ダビンチSi)を使用した前立腺がんに対する前立腺悪性腫瘍手術(ロボット支援腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術;RALP)を行うには施設認定を受ける必要があります。当院では手術支援ロボット(ダビンチSi)導入と同時に申請を行い認定施設として認められました。平成25年3月23日に最初の手術を行い、

最初の手術から保険治療として行うことができました。手術支援ロボット(ダビンチSi)を開始して6ヵ月が経過した8月28日までで26人の治療を終了いたしました。従来の小切開腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術と比べて術後の回復は早く平均入院期間は短くなっています。排尿機能の回復も従来よりも早く、手術支援ロボット(ダビンチSi)



手術中 助手はモニターをみて手術に参加して術後の回復は早く平均入院期間は短くなっています。排尿機能の回復も従来よりも早く、手術支援ロボット(ダビンチSi)



手術中 術者はコンソールで手術を行う

を用いた治療の“すばらしさ”を実感しております。腎悪性腫瘍に対する腹腔鏡下腎部分切除術など他の術式への展開を検討・準備中です。

## Topics

## 内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD) 内視鏡部長 芸瀬 基明

当科では、先任医師の退職でしばらく途絶えておりました早期胃癌・胃腺腫に対するESD治療を新病院への移転を機に、2007年より再

開いたしました。初年度は年間7件でしたが、紹介医の先生方のおかげをもちまして、年々件数を増やし、2011年には年間51件となりました。また2012年4月から大腸腫瘍に対するESD

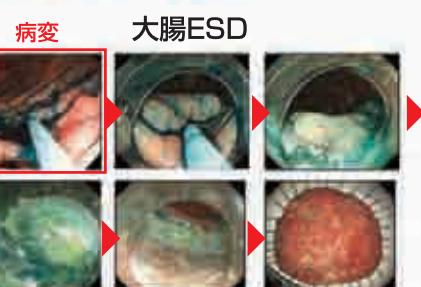


## 当科でのESD件数



が保険収載となり、同年、大腸病変に対する5件を含め、年間54件を数えました。そして、今年度は、胃病変51件+大腸病変15件の計66件を、既に半期で達成いたしました。このベースでいくと今年度、100件突破は間違いなさそうです。

ESDはおなかを切らずに、癌を切り取ることができる患者さんに優しい治療です。治療を受けられた多くの患者さんにも大変喜んでいただけております。



適応症例がございましたら、当科にご紹介いただけますと幸いです。

## チームの紹介

### 緩和ケアチーム



緩和回診前の打ち合わせ

の高い緩和ケアを提供するために努力しています。

当センターの緩和ケアチームは5名のコアメンバーの他、4人の医師、看護師、栄養士、リハビリ、MSW、臨床心理士など20名から構成されています。また、各部署にはリンクナースが配置され、互いに連携して病院ぐるみで緩和ケアに取り組む体制をとっています。チームへの依頼件数は年間200件ほどで、常時7～15名の患者さんをケアしています。毎日のラウンド、週2回のチーム回診、週1回のカンファランスを行うことで、いつでも適切で細やかな対応が可能です。

各病棟には1～2床づつの緩和ケア病床（計10床）

### がん医療センター長 國枝 克行

がん診療における「緩和ケア」の重要性が日ごとに高まる中、当センターはがん診療連携拠点病院として、質

が設置され、緩和病床の患者さんには、より積極的にチームが関わり、緩和ケア病棟のようなケアを目指しています。緩和ケア外来を週2回（月、木）開いていますが、入院から外来への切れ目ない緩和ケアの継続と在宅緩和ケアとの懸け橋になるような役目を担っています。本年7月から精神腫瘍科 桑原秀樹部長がチームに加わり、精神部門のケアが強化されました。

私たちは、「緩和ケア」を患者さんに寄り添うがん医療を実践する病院のシンボルと認識して、さらなる充実を図っていきます。



### 新しい取り組み

### 栄養センター部（10月1日組織改正予定）主任部長兼内科部長／栄養管理部長 飯田 真美

### 管理栄養士が外来に待機し、積極的に支援。 外来の待ち時間に栄養指導が受けられます！

「健康は“食”にあり」と言われます。平均寿命が延びる一方で、「生活習慣病」である糖尿病や心臓病、高血圧症等の疾患のある人が増加しています。ただ長寿ということではなく、「元気で長生き」していただくためには、自分の健康は自分で守るという考えが大切で、生活習慣の中でも特に食習慣を見直していくことが有効です。毎日の食事から摂る栄養の過剰や欠乏、あるいは偏りを是正し、適正な栄養を摂るためにには、個々の人に合った“食”的質」「量」「バランス」「食べ方」などに配慮していくことが必要です。また、患者さんは1度聞いただけで全部を理解することは、難しいことが多いようです。繰り返し聞いていただき、実践・評価・見直しを重ねる中で、実際の生活の中に良い習慣として定着が図れると思います。

当院では今夏より、患者さんが診療の待ち時間を利用して、気軽に栄養相談ができるように窓口を設置し、管理栄養士が待機しています。疾患治療のために有効に活用していただきたいと考えています。病診連携での栄養指導もご利用いただけます（診療担当：臨床栄養科）。



外来栄養指導の様子

元気な管理栄養士がお待ちしています。



岐阜県総合医療センター健康祭2013にて  
2013.4.20

### 利用案内

平日9時～12時

#### 所要時間

15～30分程度 保険診療

#### 対象

高血圧症

糖尿病

脂質異常症

痛風

貧血 等

（医師の診断があった方）

# 新任部長の挨拶・抱負



## 精神腫瘍科部長 桑原 秀樹

日本精神神経学会  
精神科専門医・指導医  
精神保健指定医・判定医  
Fellowship of International Society  
for Affective Disorders

先生方はじめまして。このたび、諸先輩方に続く5人目の精神科医として着任いたしました。身体疾患に合併した精神疾患の治療(コンサルテーション・リエゾン活動)、とりわけがん患者さんへの‘精神科対応力’強化を目的に「精神腫瘍科」部長職を拝命した次第です。当院緩和ケアチームの一員としての活動に加えて、地域最前線の先生方のがん治療のバックアップにお役に立てばとの思いで日々臨んでおります。先生方におかれましては、ご指導・ご鞭撻のほど何卒宜しくお願ひ申し上げます。



## 内視鏡治療部長 山崎 健路

日本消化器内視鏡学会  
指導医・専門医・東海支部評議員  
日本消化器病学会  
指導医・専門医・東海支部評議員

平成25年4月より、消化器病センター・内視鏡治療部長として赴任しました山崎健路です。消化管領域(食道・胃・大腸)を専門としております。日夜、正確な内視鏡診断・治療をスタッフ一同が目指しています。そのためにNBI(narrow band imaging)や色素を併用した拡大観察などを積極的に用い、ESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)をはじめとした内視鏡治療を行っています。治療のみならず、診断においてもこれらのmodalityは有効で、より早期な段階での病変の発見を心掛けています。

今まで以上に皆様に信頼される内視鏡診療を提供できるよう、努めて参ります。

## 患者さんの声



### タヴィンチによる前立腺がんの手術を体験して

服部 功



2012年9月6日に前立腺針生検の検査を受け、数か所に癌があると診断されました。

そして、転移の検査は異常なしとの診断を受けました。高橋先生から、治療方法について丁寧な説明をして頂いた結果、手術することにしました。

手術の選択の中で、神の手と言われる内視鏡手術支援ロボット“タヴィンチSi”が2013年2月末～3月初めに導入されるとのお話を聞きました。来年まで待って癌の進行が心配でしたが、高橋先生は大丈夫と言っていただきましたので、家族と相談してロボット手術をする事に決めて、2013年3月23日に無事手術を終えました。

手術後は、回復が非常に早く手術後5日目には点滴も全てはずれ、痛みも少なく、心配していた尿漏れも無くて順調で、さすが“神の手”はすごいなと思いました。

退院後は痛みも全くなく、手術前は夜中に3～4回行っていたトイレも、今は1回ぐらいに減りました。

### 食道・胃内視鏡的粘膜剥離術(ESD) の治療を受けて

山田 多津子(仮名)

近くのかかりつけの病院で胃の調子が悪いため、受診して検査を受けて、1週間後の検査の結果、早期の胃がんと言われました。その病院では治療ができないとのことで、総合医療センターに紹介状を書いていただき、治療を受けることになりました。

内視鏡検査の結果、1ヶ月後に内視鏡の手術を受けることになりました。手術の前日は胸のレントゲン、心電図の検査があり、手術当日は内視鏡の細い針でポリープを切りました。手術は麻酔がよく効き、眠っていました間に終わり、約2時間かかりました。手術が終わってから3時間、絶対安静で休んでいました。

翌日、内視鏡の検査で出血もなく、傷口の経過も順調と言われました。3日間の点滴が辛く、4日目には分離食になり、とても美味しいいただきました。

病気をして健康の有り難さ、生きる喜びを実感しました。

入院中の1週間本当にお世話になり、ありがとうございました。

# 地域医療連携センター部からのお知らせ

はじめまして「自宅退院サポートセンター部」です。

近年、終末期ケアも含み生活の質を重視した医療としての在宅医療のニーズが高まっていることから、今年4月に「在宅支援センター部」を新設し、患者さんへの医療・介護情報の提供や地域の在宅医療を担う関係機関との連携の窓口として機能を発揮しております。その後この組織の目的や機能をより明確にさせていただくため、9月1日より「自宅退院サポートセンター部」と名称を変更することとなりました。



## 「自宅退院サポートセンター部」では

- ①地域の医療機関や訪問看護師、介護職の方々と積極的に連携していきます。
- ②地域から医療・介護についてのお問い合わせが多くなってきており、その窓口としての機能を担っていきます。
- ③自宅退院される患者さんの退院支援を退院調整室のMSW、退院調整看護師と共に行います。
- ④在宅医療を推進できる看護師を育成していきます。

今年度すでに訪問看護同行研修を実施、地域へ出向き退院後の生活の様子を見てきました。今後も多職種連携における看護師の役割や必要な援助について考えていきます。

今後とも大変お世話になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

## 第1回岐阜県総合医療センター“Clinical Round”

当センターで日ごろご紹介いただいたり経験する症例を、より深く理解し、様々な臨床診療科や画像診断、および病理学的な立場から検討できる場として、岐阜県総合医療センター“Clinical Round”を開催いたします。救急、内科系、外科系症例を、実際の臨床データや臨床経過、画像診断、病理組織所見などを詳細にみながら、自由な雰囲気の中で討論できればと考えています。また、専門医による症例の解説も予定しており、先生方との有意義な検討会となるよう準備しております。皆さまの参加を是非お待ちしています。

日時

平成25年10月19日(土)  
14:00～17:00

場所

岐阜県総合医療センター  
情報交流棟 3階 講堂



## 10月より連携室時間外対応時間にも診療予約受付開始!

25年5月より、平日20時まで、土曜日9時～13時まで電話での対応をさせていただきましたが、10月よりFaxによる診療予約も受け付け、可能な限り当日中にお返事させていただきます。

ただ、診療内容によっては医師あるいは各診療科外来の確認が必要な場合があるため、次の診療日以降の返信となります。そのことについては、当日その旨ご連絡申し上げます。

なお、当日の救急受診などにつきましては、今まで通り**代表電話 (058-246-1111)**に御連絡ください。

救急受診患者の診療情報をFaxされる場合も、今まで通り**救急救命センター受付Fax (058-240-0013)**にお送りください。



## 編集後記

岐阜県総合医療センター地域医療連携センター部新聞第25号をお届けします。  
病診連携に向けて、先生方に少しでもお役に立てる紙面を目指しています。  
ご意見、ご要望がございましたらお寄せください。お待ちしています。



地方独立行政法人  
岐阜県総合医療センター

〒500-8717 岐阜市野一色4丁目6番1号  
地域医療連携センター部直通 TEL (058) 249-0017  
FAX (058) 248-9334

発行／岐阜県総合医療センター地域医療連携センター部